

第12回国労フクシマ交流・視察学習会



原発許すまじ 悔恨を教訓に 核なき世界を

2024年12月7日(土)～8日(日)

国鉄労働組合

はじめに

東京電力・福島第一原発事故から13年8ヵ月が過ぎ、原発事故被災地での「国労フクシマ交流・視察学習会」も今回で12回目となります。

昨年8月24日から始まった「ALPS処理水」(放射能汚染水)の海洋放出から一年以上が経過しました。東京電力は去る11月5日、通算10回目の放出が終了したと発表し、人為的ミスによるトラブルが発生した5回目の放出以外は、計画通りに進んでいるとしています。燃料デブリを通過する汚染水は、トリチウムだけでなく60種を超える核種が含まれ、生態系への影響も未知数といわれています。

一方、政府は処理水の海洋放出の安全性について「国民の間に一定程度浸透している」として、情報発信の客観性や透明性の確保に努めたと強調していますが、9月16日から開催された国際原子力機関(IAEA)の総会において、中国は処理水を「汚染水」と呼び、あらためて放出に「強く反対する」立場を繰り返しました。岸田前首相は日中間で日本産水産物の段階的な輸入再開を合意したと述べましたが、一年以上にわたって続く中国による輸入停止措置の影響で、漁業や水産業では厳しい状況が続き、SNSを通じて処理水をめぐるフェイクなど誹謗中傷がいまなお根強く残っています。原発からの放出される通常の処理水とは異なるわけですから、政府が安易に海洋放出を正当化する詭弁は言語道断といわざるを得ません。

こうしたなか、福島第一原発の2号機では、9月10日から、事故で溶け落ちた核燃料と周囲の構造物が混ざり合った核燃料デブリの試験的な取り出しが初めて開始されましたが、取り出し装置先端のカメラ2台の映像が確認できなくなるトラブルが発生し、9月17日に中断、カメラの交換を経て10月28日に再開されました。しかしながら、1~3号機に堆積するデブリは計880トンに上ると推計され、今回、試験的採取するデブリは高線量に阻まれて耳かき1杯程度の3グラム以下にとどまり、事故から13年たっても格納容器内の状況をつかみきれていません。いまだに肝心なデブリ取り出しの完了は見通せず、当初掲げられた「廃炉まで30~40年」とした目標とは裏腹に、廃炉までさらに果てしない道のりが続くことは想像に難しくありません。

東北電力は10月29日、東日本大震災で停止して以来、止めていた女川原発(宮城県石巻市、女川町)2号機の原子炉を13年ぶりに起動し、再稼働させました。福島第一原発の事故以来、被災地では初の原発の稼働となります。

東日本大震災の発生前、日本には54基の原発があり、日本で使う電力の30%前後を原子力で賄っていました。事故から13年以上が経過した2024年10月時点で「地元の同意を得た」として再稼働された原発は、大飯(関西電力)、高浜(関西電力)、美浜(関西電力)、玄海(九州電力)、川内(九州電力)、伊方(四国電力)、女川の7発電所の13基ですが、これまでは、事故を起こした福島第一原発とはタイプが異なる「加圧水型」は西日本エリアに集中しており、福島第一原発と同じ「沸騰水型」の再稼働は、女川が初となりました。

さらに、島根原発2号機(島根県松江市)では、10月28日、原子炉に核燃料を入れる作業が開始され、検査を経て、12月上旬に再稼働、2025年1月に営業運転が予定されています。

また、原子炉への核燃料の装填に伴う検査を6月に終えた柏崎刈羽原発7号機(新潟県柏崎市)

を再稼働するため、東京電力、政府は地元同意を取り付けようと躍起になっています。

加えて、東海第二原発（茨城県東海村）の再稼働に向けた安全対策工事の施工不良、大飯原発三号機と四号機（福井県敦賀市・おおい町）や川内原発一号機と二号機（鹿児島県川内市）などの老朽化が進み危険性が増す原発の運転延長など原発再稼働はさまざまな問題を抱えています。

一方、日本原子力発電の敦賀原子力発電所二号機（福井県敦賀市）について、原子力規制委員会は11月13日、原子炉建屋の真下の断層が将来動く可能性が否定できないとして、原発の新規制基準に適合しないと正式に判断しました。再稼働を認めない判断は、2012年に規制委員会が発足して以降、初めてのことであり、原子力政策において大きな転換点と捉えることができます。

今年1月の能登半島地震では、あらためて災害の恐ろしさが認識されるとともに、地震と原発事故の複合災害が起これば、住民はどこにも逃げることができないことが思い知らされました。

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故に伴う福島県内外への避難者数は、2024年2月1日時点で2万6,277人にのぼり、県外が2万279人、県内が5,993人、避難先不明者が5人とされています。

政府は原発事故によっていまだ故郷に帰ることもできないまま避難を強いられている人々が2万人以上いるにもかかわらず、GX基本方針を策定後、福島原発事故そのものがなかったかのように、原発積極活用へとエネルギー政策の舵を切っています。

ふるさとを壊され、かけがえのない暮らしが失われる原発事故や能登半島地震が示したのは、「原発との共存できない」という事実です。

こうして原発推進政策に大幅な予算が投じられる一方で、この間、福島第一原発事故被災者の医療費・介護費の補助が段階的に打ち切られています。避難者にとっては、いまなお続く『原子力緊急事態宣言』下のなか、生活基盤が失われていることに変わりはなく、すでに打ち切られた地域と支援が続いている地域の避難者との間で断絶が生じている現状もあります。

避難者にとって、支援の打ち切りは到底受け入れられるものではありません。何よりも、被災者の声や権利を守るための取り組みの強化が求められています。

こうしたなか、JR常磐線は全線復旧から5年を迎えますが、福島県富岡町、大熊町および双葉町に残された帰還困難区域はいまだ高い放射線量に阻まれて解除の見通しが立たず、日常生活を取り戻すにはほど遠い状況にあります。

私たちは当該の水戸・仙台地本とも連携しながら、常磐線の輸送業務の現場に携わるJRおよびグループ・協力会社社員の健康管理も含めて、旅客輸送の安心と安全性確保に向け、引き続き注視していかなくてはなりません。

この間、国労は2013年11月から昨年まで11回にわたって関係地本である仙台地方本部と水戸地方本部を中心に全国の原発立地エリア・地方本部代表とともに被災地での交流・視察の取り組みを行ない、東電福島第一原発事故の教訓を風化させず、原発再稼働阻止と再生可能エネルギー政策への転換と脱原発社会の実現に向け、その認識を共有化させながら、ともに全国で運動を進める決意を固め合ってきました。

今回の第12回国労フクシマ交流を通じて、これから国労を担う次世代の仲間たちを中心に福島第一原発事故の教訓を風化させず、原発再稼働阻止と再生可能エネルギー政策への転換と脱原発社会の実現に向け、さらに運動をすすめていく決意を固め合いたいと思います。

第 12 回国労フクシマ交流・視察日程について

1. 日 時 2024 年 12 月 7 日（土）～12 月 8 日（日）
2. 内 容 (1) 東京電力福島第一原発事故関連施設等の視察
(2) 福島第一原発廃炉を取り巻く現状と課題についての学習会
(3) 現地からの報告と交流

【12 月 7 日（土） 現地視察・交流会】

【集合時間・場所】 7 日（土） 8 時 30 分 東京駅鍛冶橋貸切バス駐車場集合

（7 日 12 時 JR 常磐線「いわき」駅での合流）

※ 東京駅鍛冶橋駐車場集合を基本とし、全行程をバスでの移動とする。但し、仙台・水戸地本等の参加者はいわき駅からの合流

『現地視察』

12 : 20 いわき駅南口ロータリー出発

⇒いわき震災伝承みらい館 13:00 着／14 : 30 出発

⇒宝鏡寺伝言館（櫛葉町） 15 : 30 着／16:30 出発

17 : 30 ホテル着

<宿泊> 『五浦観光ホテル 大観荘』 ☎ 0293-46-1111

〒319-1702 茨城県北茨城市大津町 722

【12 月 8 日（日） 交流学習会】

『第 12 回国労フクシマ交流学習会』（日立シビックセンター）

8 : 30 ホテル出発⇒日立シビックセンターセンター9 : 30 着

※ 終了後、日立駅または東京駅まで車（バス）で移動して解散

交流・学習会次第

『第12回国労フクシマ交流・現地視察交流会』

【12月7日(土) 18:00～20:00 五浦観光ホテル大観荘】

- | | |
|-------------|------------------|
| (1) 司会・開会挨拶 | 山中 和也 (国労本部青年部長) |
| (2) 主催者挨拶 | 松川 聡 (国労本部委員長) |
| (3) 自己紹介 | 全員から
懇 談 |
| (4) 閉会挨拶 | 岩元 孝信 (国労本部書記長) |

『第12回国労フクシマ交流学習会』

【12月8日(日) 10:00～14:00 日立シビックホール 502号会議室】

- | | |
|-----------|--|
| (1) 司会挨拶 | 赤沼 廣行 (国労水戸地本書記長) |
| (2) 開会挨拶 | 埴 正人 (国労水戸地本委員長) |
| (3) 主催者挨拶 | 松川 聡 (国労本部委員長) |
| (4) 来賓挨拶 | 古渡 秀和さん (茨城県平和フォーラム事務局長) |
| (5) 報告 | 田口 七望 (ななみ) さん (高校生平和大使) |
| (6) 講演 | 「福島第一原発事故の現状と課題」
古市 三久さん (福島県議会議員) |
| (7) 講演 | 「いま私たちが生きている時代と努力しようと思うこと
～ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ～」
大石 光伸さん
(東海第二原発運転差止訴訟原告団共同代表) |
| (8) 講演 | 「東電福島第一原発の被ばく労働について」
狩野 光昭さん (いわき市議会議員) |
| (9) 報告 | 「国労フクシマ交流の取り組みを振り返って」
菊池 忠志さん (事故当時：国労水戸地本書記長) |
| (10) まとめ | 岩元 孝信 (国労本部書記長) |
| (11) 閉会挨拶 | 丸谷 豊美 (国労仙台地本書記長) |

第12回国労フクシマ交流学習会

日 時 2024年12月8日(日) 10時~14時
場 所 「日立シビックセンター」502号会議室
〒317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1
☎ 0294-24-7711
主 催 国鉄労働組合

【交流学習会プログラム】

- 10:00 司会挨拶 赤沼 廣行(国労水戸地本書記長)
10:02 開会挨拶 塙 正人(国労水戸地本委員長)
10:05 主催者挨拶 松川 聡(国労本部委員長)
10:15 来賓挨拶 古渡 秀和さん(茨城県平和フォーラム事務局長)
10:30 報 告 田口 七望(ななみ)さん(高校生平和大使)
10:45 講 演 『福島第一原発事故の現状と課題』
古市 三久さん(福島県議会議員)
11:30 講 演 『いま私たちが生きている時代と努力しようと思うこと
~ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ~』
大石 光伸さん(東海第二原発運転差止訴訟原告団共同代表)
12:20 昼食休憩
13:00 講 演 『東電福島第一原発の被ばく労働について』
狩野 光昭さん(いわき市議会議員)
13:30 報 告 『国労フクシマ交流の取り組みを振り返る』
菊池 忠志さん(事故当時:国労水戸地本書記長)
13:50 ま と め 岩元 孝信(国労本部書記長)
14:00 閉会挨拶 丸谷 豊美(国労仙台地本書記長)

第 12 回国労フクシマ交流・現地視察学習会写真



『いわき震災伝承みらい館』で東日本大震災・福島第一原発事故当時の状況を視察



いわき市薄磯・豊間地区で『語り部の会』の方から津波被災の実相を聞く



宝鏡寺伝言館にて丹治杉江事務局長から反原発の長い闘いの歴史を聞く



『原発悔恨・伝言の碑』前にて～核廃絶と脱原発社会の実現を誓い合う



第12回国労フクシマ交流学習会～高校生平和大使から活動の報告

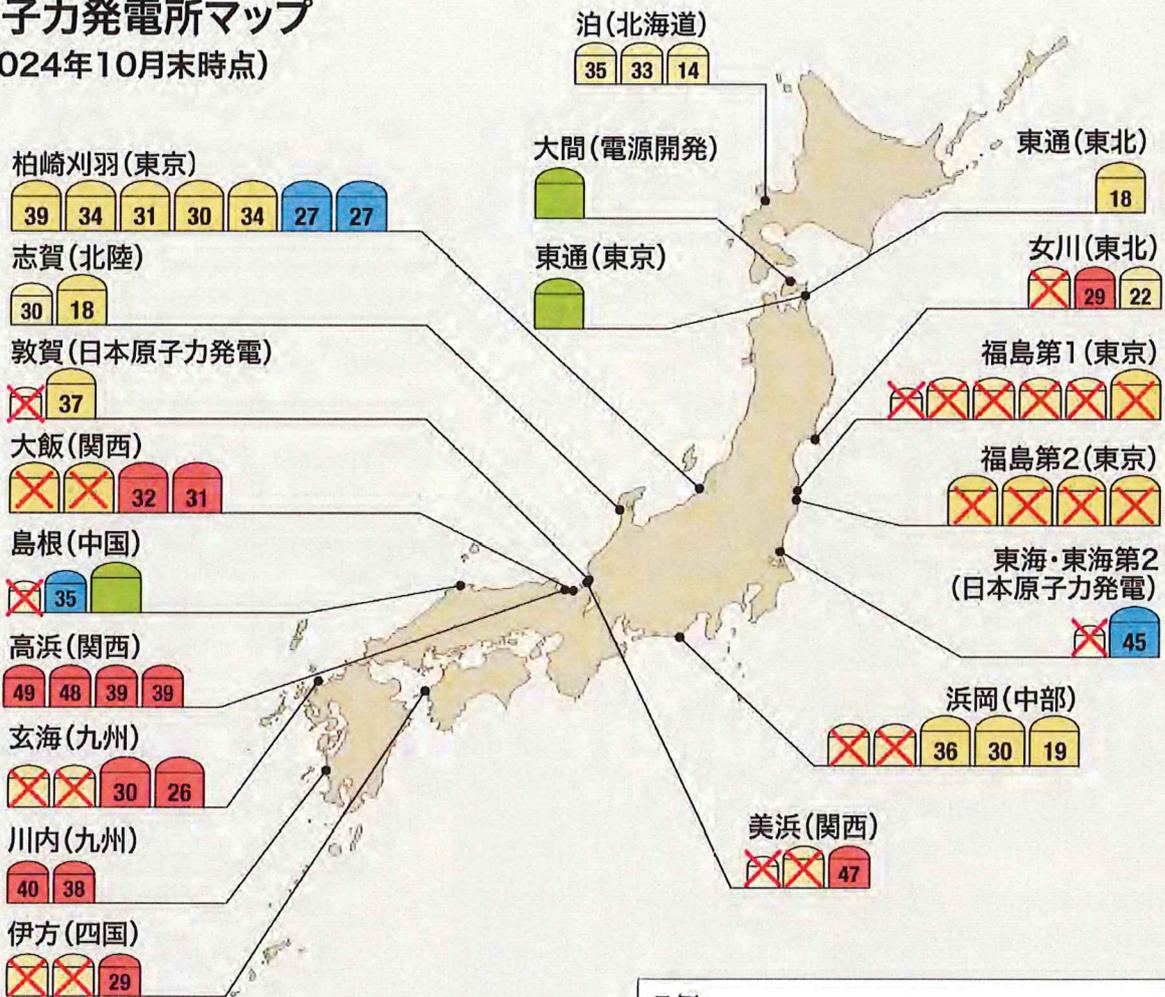


講演をいただいた大石さん、古市さん、狩野さん

<資料>

全国の原発再稼働と廃炉の現状

原子力発電所マップ (2024年10月末時点)



資源エネルギー庁、各電力会社公表資料等を参考に編集部作成
 ※東日本大震災前の時点で廃炉決定済だった東海発電所と浜岡発電所1・2号機も地図に含めている。

nippon.com

凡例

出力規模	再稼働済 (定期検査中も含む)
50万kW未満	新規基準合格
100万kW未満	建設中
100万kW以上	廃炉決定済

プラント内の数字は運転開始からの年数

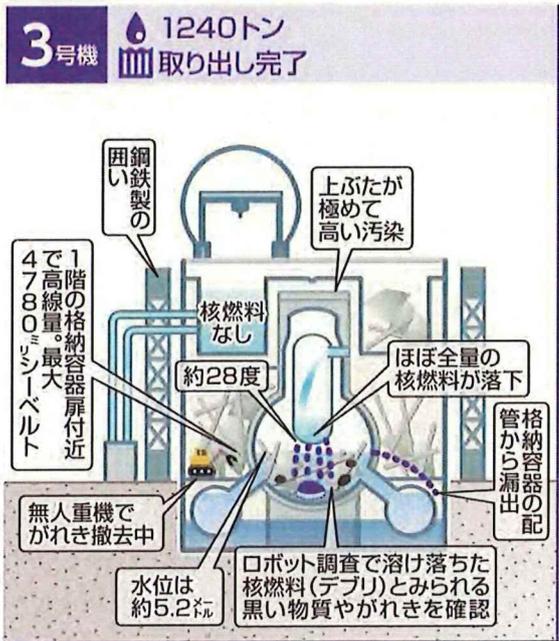
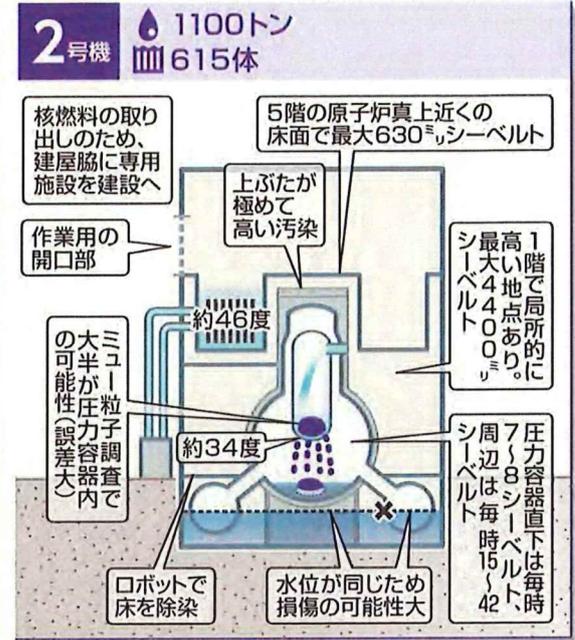
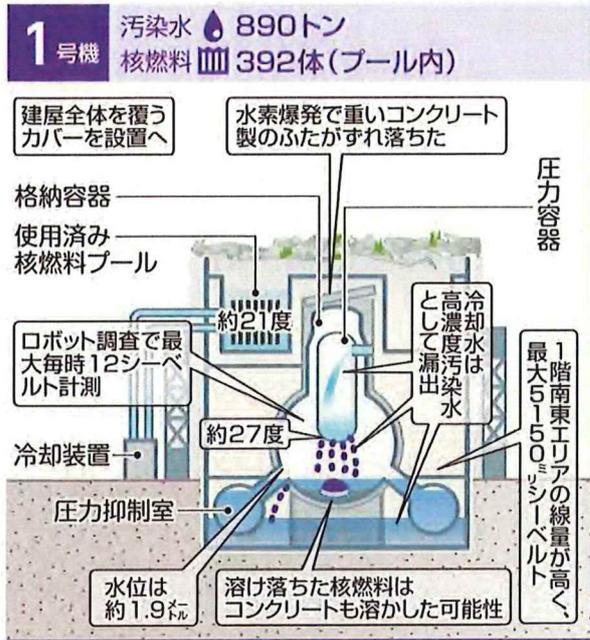
東日本大震災以降の原発をめぐる主な動き

- 24年12月7日 島根原発（中国電力）2号機が再稼働。福島第1原発と同じ「沸騰水型」としては女川に続く2基目となる
- 24年11月3日 再稼働したばかりの女川原発（東北電力）2号機で、原子炉内の状況を調べる「中性子検出器」の補助計器を電動で出し入れが不能となり、4日朝、原子炉を停止
- 24年10月29日 女川原発（東北電力）2号機が再稼働。東日本大震災以降、東日本エリアで原発が再稼働するのは初めて
- 24年10月 原子力規制委員会が、11月に運転開始から50年を迎える高浜原発（関西電力）1号機の今後10年間の保安規定の変更を認可。現行制度で初めて原発の50年超運転を認めた
- 24年8月22日 東京電力が東日本大震で爆発事故を起こした福島第1原発2号機の核燃料（デブリ）の試験的取り出し作業に着手したものの、回収装置の取り付け手順にミスがあり中断。9月に再開したが、回収装置のカメラトラブルで再び中断。10月下旬に再再開した
- 23年9月 運転開始から47年が経過した高浜原発（関西電力）2号機が再稼働
- 23年8月24日 福島第1原発（東京電力）の敷地内にたまる放射性物質トリチウムを含む処理水の海洋放出が始まった
- 23年7月 運転開始から48年が経過した高浜原発1号機が約12年ぶりに再稼働
- 23年7月 国際原子力機関（IAEA）が福島第1原発の処理水の海洋放出を「国際的な安全基準に整合的」とする包括報告書を公表
- 23年5月 原発の運転期間を「原則40年、最長60年」と定めた安全規制を大きく転換し、電力の安定供給と脱炭素化を目的に、60年超の長期利用を可能とするGX脱炭素電源法が可決成立
- 22年6月 島根県の丸山達也知事が、島根原発（中国電力）の再稼働を容認
- 21年6月 運転開始から44年が経過した美浜原発（関西電力）が約10年ぶりに再稼働
福島第1原発事故後、原則40年とされた運転期間を超える原発が再稼働するのは初めて
- 21年4月 福井県の杉本達治知事が運転開始から40年を超える美浜原発3号機と高浜原発1・2号機の再稼働に同意表明

- 21 年 4 月 柏崎刈羽原発（東京電力）のテロ対策に不備があった問題で、原子力規制委員会が、同原発内での核燃料の移動を禁じる是正措置命令を正式決定。再稼働の準備は凍結
- 21 年 4 月 政府が、福島第 1 原発の処理水を希釈した上で海洋放出する方針を決定
- 21 年 3 月 柏崎刈羽原発で 20 年 3 月以降、外部からの侵入を検知する設備が故障し、十分な代替措置が取られていなかったと原子力規制委員会が発表
- 21 年 1 月 柏崎刈羽原発で 20 年 9 月に中央制御室に入室する ID カードが不正使用されていたことが発覚
- 20 年 11 月 宮城県の村井嘉浩知事が女川原発（東北電力）の再稼働に同意。福島第 1 と同じ「沸騰水型」としては初
- 18 年 7 月 第 5 次エネルギー基本計画閣議決定 「2030 年度に原発による発電比率を 20～22%にする」
- 18 年 3 月、6 月 玄海原発（九州電力）3・4 号機再稼働
- 18 年 3 月、5 月 大飯原発（関西電力）3・4 号機再稼働
- 16 年 8 月 伊方原発 3 号機再稼働
- 16 年 1、2 月 高浜原発 3・4 号機再稼働
- 15 年 8、10 月 川内原発（九州電力）1・2 号機再稼働（新基準施行後最初の再稼働）
- 14 年 4 月 第 4 次エネルギー基本計画閣議決定「原発は重要なベースロード電源」と位置付ける一方で「再生可能エネルギーの導入などで原発依存度は可能な限り低減」
- 13 年 9 月 大飯原発 3・4 号機が定期検査入り、再び原発ゼロ
- 13 年 7 月 自然災害やテロ攻撃に備える原発の新規制基準施行
- 12 年 9 月 原子力規制委員会発足
- 12 年 7 月 大飯原発 3・4 号機が再稼働
- 12 年 6 月 原発の運転期間が原則 40 年までに延長
- 12 年 5 月 泊原発（北海道電力）3 号機が運転停止、42 年ぶりに国内の原発稼働ゼロ
- 11 年 3 月 東日本大震災、東京電力福島第 1 原発事故

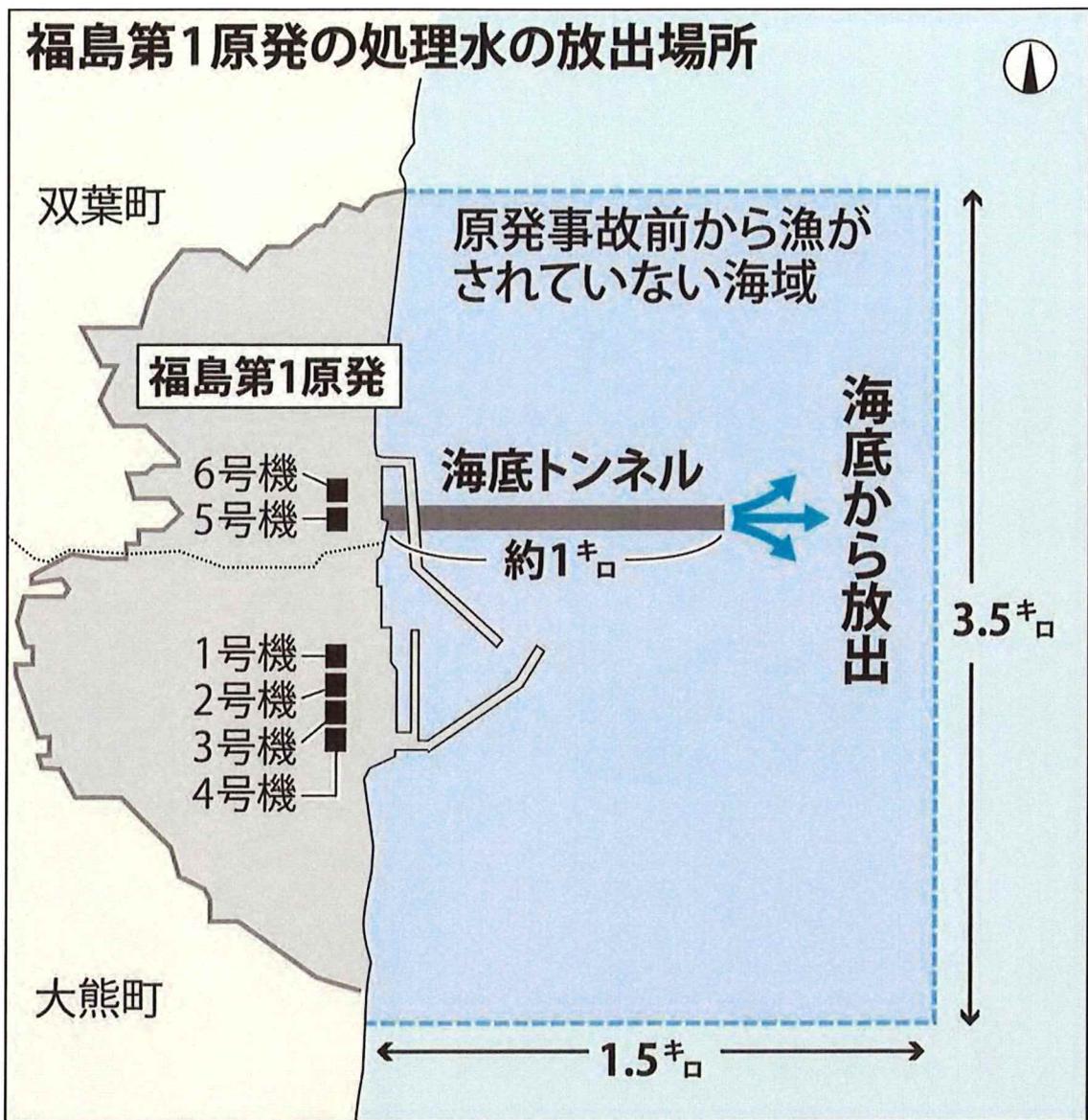
デブリ採取を巡る経過

2011年 3月	福島第1原発事故
12月	政府と東電が1～4号機の廃炉を最長40年で完了する工程表策定。取り出し開始は10年以内を予定
19年 2月	2号機内部調査でデブリとみられる堆積物の持ち上げに成功
12月	工程表改訂で、採取を21年に2号機から始めると明記
20年12月	新型コロナウイルスを理由に、採取開始目標を22年に延期
22年 8月	採取に使うロボットアーム改良のため、開始目標を23年度後半に延期
24年 1月	東電が釣りざお式装置を用いた採取に変更し、開始目標を24年10月までと表明。3回目の延期
① 8月22日	着手予定だったが、装置のパイプの並び順を間違えるミスで中断
9月 4日	東電の小早川智明社長が、齋藤健前経済産業相に原因を報告
10日	採取作業に着手
② 17日	カメラ2台の映像が、遠隔操作室に届かなくなる
10月 7日	カメラ復旧を断念し、交換すると発表
18日	カメラの交換を終える
28日	採取作業を再び着手
③ 30日	デブリをつかむ
④ 11月 7日	回収完了
12日	日本原子力研究開発機構の施設に搬入。分析へ



福島第1の1週間

(11月7日〜11月13日)

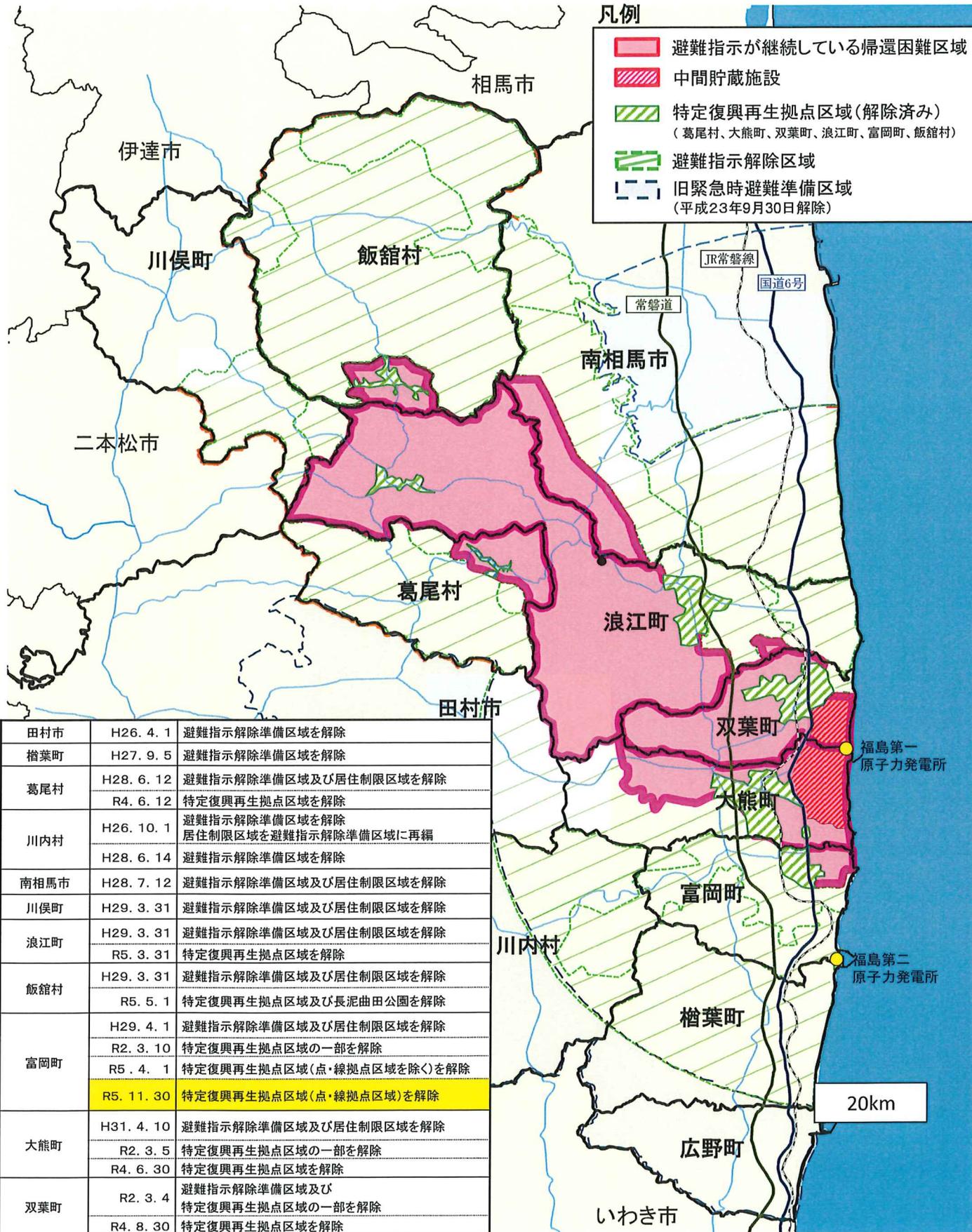


福島第一原発の処理水放出のイメージ



避難指示区域の概念図

令和5年11月30日時点 富岡町の特定復興再生拠点区域の避難指示解除後



震災語り部

未曾有の大震災を体験した「震災語り部」が、記憶や教訓、被災地の復旧・復興状況などをお話します。

震災語り部による定期講話

当館では、毎週土日・祝日の午前(10:30～)と午後(14:00～)に、語り部による無料の定期講話を開催しています(各回60分程度)。

※イベント等により、中止や開催時間を変更する場合がありますので、当館ホームページでご確認ください。

団体・個人による震災語り部の講話のご依頼

出張講話、館内(みらい館)での講話、ガイドツアー形式(語り部が観光バス等に同乗し、被災地域を案内)での講話、オンラインでの講話等、各種ご依頼に対応します。

また、講話内容、視察コース等のご相談も承ります。語り部のご依頼は、当館ホームページ掲載の「震災語り部依頼書」をご記入の上、FAXまたはメールでお申し込みください。なお、語り部講話のご依頼は語り部への謝礼が必要となります。



震災関連資料の収集

東日本大震災の記憶や教訓を後世に継承していくため、当時の状況や復興に向けた取組みの様子を伝える「震災関連資料」の収集を行っております。

現物・写真等の提供について

ご提供いただける資料をお持ちの方は、当館まで電話やメール等でご連絡下さい。



資料の活用について

収集した資料は、当館において整理と分類を行い「震災アーカイブ」として一元的に管理・活用(公開など)させていただきます。



ポケット学芸員(展示物ガイドアプリ)

当館の展示物は、「ポケット学芸員」のアプリで文字と音声の両面で解説を受けることができます。お客様のスマートフォンにダウンロードしていただくか、当館で貸し出ししているタブレットにてご利用いただけます。



P 駐車場あり
【駐車可能台数】
普通車：32台 大型：2台

バスでお越しの場合

- ・JRいわき駅南口から、新常磐交通バス泉駅前行き(豊間・江名経由)乗車、「灯台入口」停留所下車 徒歩3分
- ・JR泉駅から、新常磐交通バスいわき駅前行き(江名・豊間経由)乗車、「灯台入口」停留所下車 徒歩3分

タクシーでお越しの場合

- ・JRいわき駅南口から約25分

お車でお越しの場合

- ・常磐自動車道 いわき中央ICから約30分
- ・常磐自動車道 いわき湯本ICから約35分
- ・常磐自動車道 いわき勿来ICから約40分

利用案内

開館時間 9:00～17:00 ※入館は16:30まで

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)、年末年始
※諸般の事情により、開館時間の短縮や臨時休館をさせていただきます。

入館料 無料

利用予約 10名以上の団体でご利用される場合は、事前予約が必要です。
※お申し込みの後、各種調整をいたしますので、ご希望に添えない場合もあります。

その他 貸出車イス2台、AED、FreeWi-Fi

●所在地
〒970-0229 福島県いわき市薄磯三丁目11

●お問合せ先(震災語り部、震災関連資料等)

TEL.0246-38-4894

FAX.0246-38-4895

ホームページ
<https://memorial-iwaki.com/>

※当館ホームページのメールフォームからもお問い合わせいただけます。

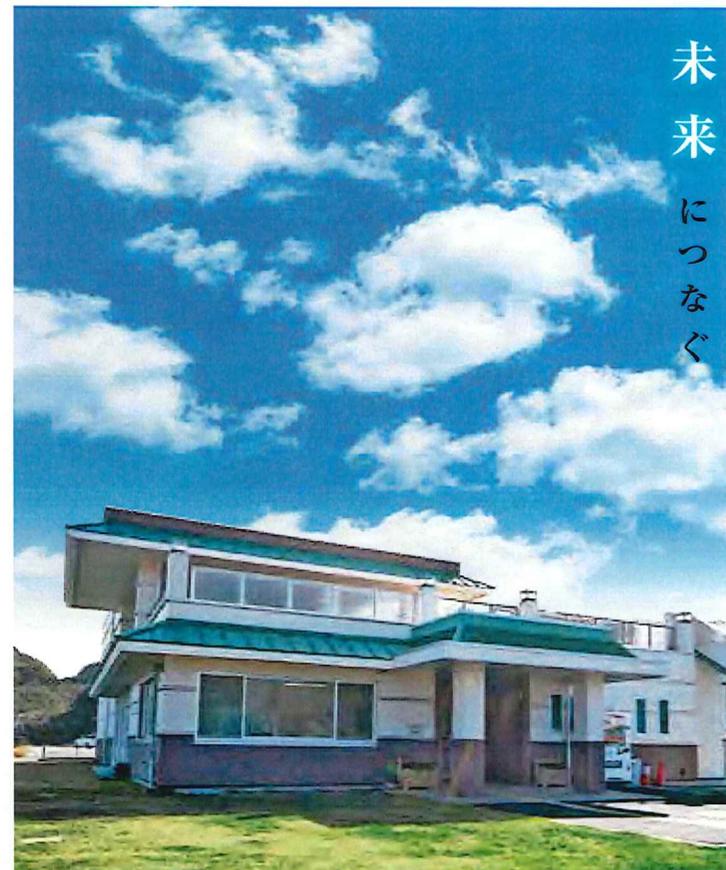


ホームページQRコード

いわき 震災伝承 みらい館

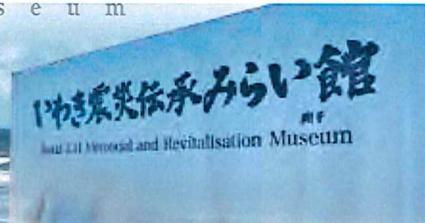
Iwaki 3.11
Memorial and Revitalisation
Museum

震災の記憶と教訓を
未来につなぐ

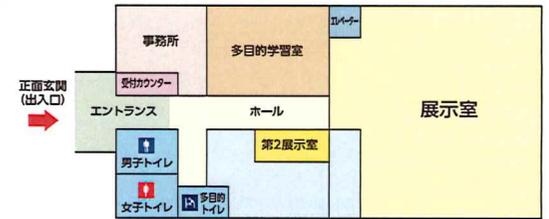


震災の記憶と教訓を未来につなぐ

いわき震災伝承みらい館は、東日本大震災での津波被災地に立地し、パネルや映像、被災した学校の備品など多様な展示を通して、いわき市における震災の記憶や教訓を伝えています。



フロアガイド



- 多目的学習室** … 最大席数約30席（常時教訓の映像を上映。団体利用時には防災教育DVD等の視聴が可能）
- 展示室** … 最大収容人数約60名（常設展示のほか、企画展を開催する場合があります。）
- 第2展示室** … 収容人数6名（催し物や展示物の内容によっては収容人数が増減することがあります。）
- 2F展望デッキ** … 2階へは階段又はエレベーターをご利用ください。
※上記最大人数は、新型コロナウイルス感染症対策及び企画展等により、制限させていただく場合があります。



井戸沢断層（塩ノ平断層）剥ぎ取り標本

東日本大震災のちょうど1か月後の4月11日に発生した「福島県浜通り地震」によって出現した断層の剥ぎ取り標本を展示。



パネル展示
発災から復旧・復興までの道のりをテーマごとに時系列で展示。



メイン映像（約10分）
本市を襲った津波の映像や、復旧・復興の様子を200インチモニターで上映。



被災現物展示
卒業式当日に津波被害にあった中学校の黒板や机、「奇跡のピアノ」などの実物を展示。

2F展望デッキ
津波被災地の復旧・復興の様子や美しい薄磯海岸が一望できるスポット。現在の景色と震災前の薄磯地区を比較できるパネルを設置。



タッチパネル展示
タッチパネルを操作してクイズ形式で学んだり、市内各地域の写真を見たりできる体験型展示。



ハンズオン展示
直接手に触れて学べる防災グッズ等の体験型展示。



原発事故関連資料
サーベイメーターや積算線量計、安定ヨウ素剤、事故当時の新聞記事等の現物資料を展示。



第2展示室
不定期で催し物等を展示しているスペース（写真は令和4年8月～10月の期間展示していた「あんばさまのまち展～神様の宿るまち。日々の暮らしと再生への希望～」）



薄磯地区 津波避難マップ

Tsunami evacuation map of Usuiso district



津波避難時に注意すること

- 地震が起きたら、まず避難!**
津波は、強い地震だけでなく、弱い地震でも起こることがあります。長くゆっくりとした揺れを感じたらすぐに避難してください。
- より高いところへ、より遠くへ避難!**
まずは、高いところへ逃げることを心がけてください。海岸・河川から離れ、できるだけ遠くへ逃げてください。
- 津波は繰り返し襲ってくる!**
津波は、第1波より第2波、第3波と大きくなる場合があります。波が落ち着くまで避難を継続することが重要です。
- 津波のスピードは速い!**
津波注意報や津波警報が発令される前に津波が来る場合もあります。直ちに避難しましょう。
- 満潮時は要注意!**
満潮時は水位が高くなっているので、津波がより大きくなります。

薄磯地区 エリアマップ

Area map of Usuiso district



- | | |
|----------------|------------------------------|
| 1 沼ノ内弁財天(賢沼寺) | 8 HERO's DINER IWAKI(ハンバーガー) |
| 2 薄井神社 | 9 薄磯海水浴場 |
| 3 東日本大震災慰霊碑 | 10 民宿鈴亀(宿泊) |
| 4 弁天岬 賽の河原 | 11 いわき震災伝承みらい館 |
| 5 中街つつじ公園 | 12 山六観光(お食事、土産) |
| 6 薄磯防災緑地 | 13 馬目商店(土産)、つるや商店(土産) |
| 7 カフェサーフィン(喫茶) | 14 塩屋埼灯台と雲雀乃苑 |

サイクリングルート「いわき七浜海道」



海岸線に沿って南北に延びる約53kmのサイクリングルートです。潮風を感じながら「いわき」ならではの景観を満喫できます。当館付近では、塩屋埼灯台や薄磯海水浴場を眺めながら爽快なサイクリングが楽しめます。

サイクリングアプリ



Android版

ios版

このマップは、令和5年1月の情報をもとに作成したものです。ご利用にあたっては、掲載されている情報に変更が生じている場合もありますので、十分注意してください。

伝言館とは？

伝言館館長の早川篤雄・宝鏡寺第30世住職と副館長の安斎育郎・立命館大学名誉教授は、半世紀近く原発批判の活動で共同してきました。

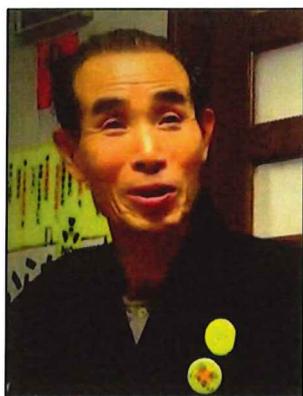
2018年9月、安斎が「原発悔恨・伝言の碑」の碑文を起草し、早川住職ともども、原発事故から10年目の2021年3月11日、宝鏡寺境内に連名で記念碑を建立することとしました。

折から、上野の東照宮境内に灯されてきた「広島・長崎の火」を宝鏡寺に移設する計画が進められ、早川住職はこれに「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言の灯」と命名しました。

「伝言」を共通のキーワードとして計画を進める中で、早川住職は将来にメッセージを伝える博物館を開設する構想をあたため、これに「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」と名づけました。館長は早川篤雄住職、副館長には国際平和博物館ネットワークの名誉ジェネラル・コーディネータである安斎育郎に加えて、被災者支援のための「福島プロジェクト」で長年共同してきた桂川秀嗣・東邦大学名誉教授も加わりました。

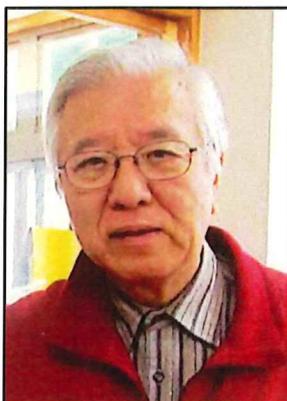
伝言館は人類が核の被害を繰り返さぬために、今後もメッセージを発信し続けたいと思います。ご支援ください。

館長



早川篤雄

副館長



安斎育郎

副館長



桂川秀嗣

宝鏡寺 伝言館（楡葉町）

Pilgrimage site

宝鏡寺の一角に、福島第一原発事故の惨禍と教訓を在野の目線で伝える資料館「伝言館」はある。故早川篤雄住職は、戦後の浜通りで、原発の誘致・建設、変わる地域を見つめてきた。地域で福祉施設を運営するなど「自他がともに幸せになる道」を探ってきた。その一方で、長年原子力発電所の危険性を指摘し、反対闘争に身を投じてきた。原発事故で、自分の考えが正しかったと確信。楡葉町は2015年9月まで全町避難を強いられた。東京電力を相手に2012年に提訴した「福島原発避難者訴訟」では原告団長を務め、2022年3月に勝訴が確定。東電に社長名で公式謝罪する場をつくらせた。2020年私費で建設した伝言館には、半世紀にわたる闘争の資料の他、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニなどの資料が多数保存展示されている。庭には広島からの非核の灯が静かに灯る。

Hokyo-ji Temple Dengon-kan (Memorial Museum)

In a corner of Hokyo-ji Temple is the Dengonkan, a museum that conveys the horrors and lessons of the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident from the perspectives of local residents. The late Chief Priest Hayakawa Atsuo had spent the post-war years in the Hamadori area, watching the planning and construction of the plants and the changing local community. He actively campaigned against the nuclear plants, pointing out the dangers of the nuclear power plants. The 2011 accident forced the entire town of Naraha to evacuate until September 2015, vindicating his concerns. In 2020, he built a privately-funded museum, which preserves and displays many documents and artefacts from his struggle over half a century, as well as his collection from Hiroshima, Nagasaki and Bikini Atoll. In the museum garden, there is an anti-nuclear flame from Hiroshima is quietly lit.

支援する

参加する



伝言館の準備作業



「伝言の灯」点火式



「原発悔恨・伝言の碑」の除幕
(早川篤雄住職と安齋)



挨拶する早川篤雄第 30 世宝鏡寺住職



「地球市民賞」をもって挨拶する安齋

この写真集の写真は「福島プロジェクト」の山口英俊さん、かもがわ出版の樋口修さんらにより撮影されました





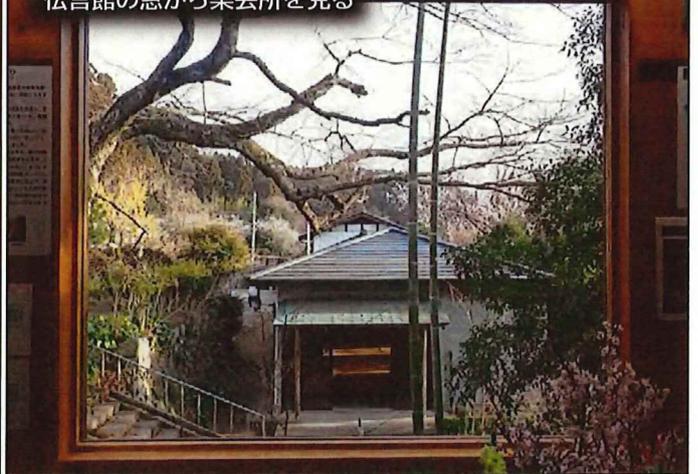
ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館



ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館(1階)

伝言の灯と原宥悔恨・伝言の碑

伝言館の窓から集会所を見る



二本松小学校1年生のときの安斎の絵日記 (1946年)



東京大学工学部原子力工学科第1期生の頃の学生証 (1963年)



伝言館1階の展示



伝言館 1階の展示



伝言館 1階の展示



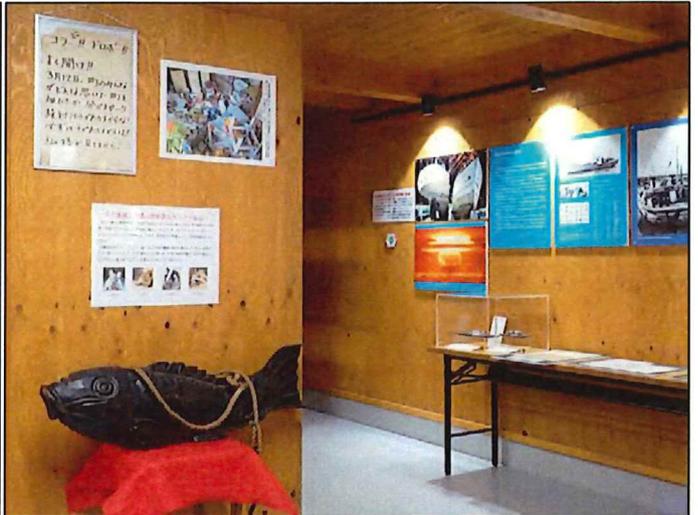
伝言館 1階の展示



伝言館 1階の展示



伝言館地階の展示



伝言館地階の展示(ビキニ水爆被災関係)



伝言館地階の展示(広島・長崎の原爆被災関係)



伝言館地階の展示



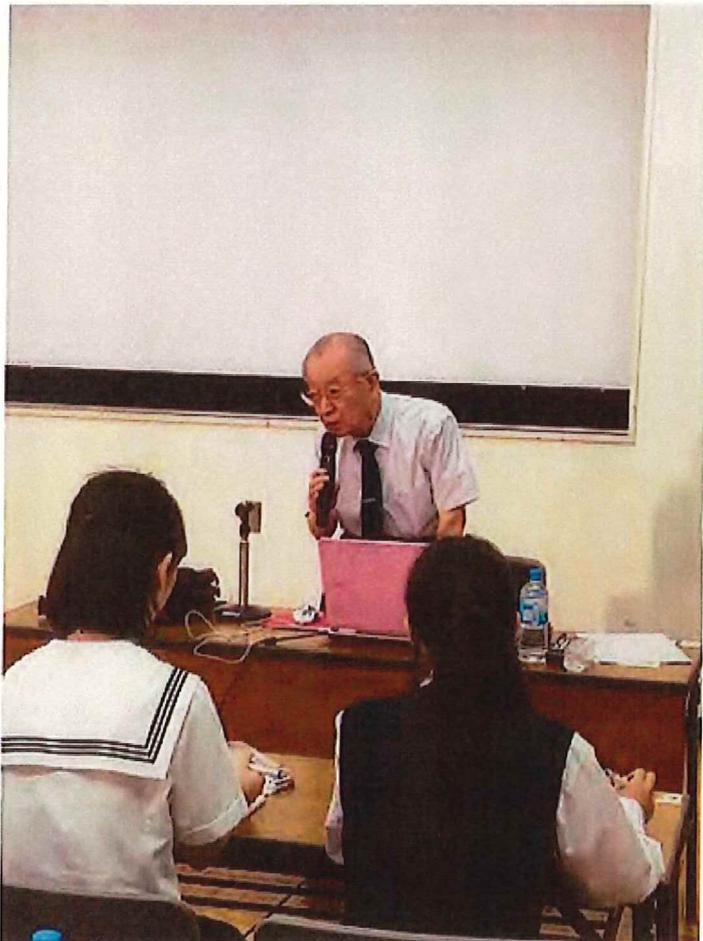


第27代高校生平和大使 始動！

6月15日～16日の2日間、第27代高校生平和大使の広島研修と結団式が行われました。初日は、元広島原爆資料館館長の原田浩さんの被爆講話を聞きました。被爆体験講話は初めてという高校生平和大使も多く、熱心に聞き入っていました。また、原水禁事務局長の谷雅志さんから「NPT体制と核兵器禁止条約」について、今の世界情勢や日本政府の立場、条約の内容などを分かりやすく解説していただきました。この後、平和公園周辺のフィールドワークをした後、原爆資料館を見学しました。夕食交流後、決意表明のスピーチをまとめたり、8月の国連欧州本部訪問についての打ち合わせを行いました。

翌日の結団式では、任命証が一人ひとりに渡され、決意表明を行いました。

初めての顔合わせで緊張していましたが、短い時間で絆を深めた第27代高校生平和大使23名は8月の長崎での再会を誓って各地での活動に取り組みます。





2024年の署名数確定！全国のメンバーと集約！

被爆79年の長崎に全国の署名活動実行委員会のメンバー約60人が集まりました。

8月8日は、ピースブリッジ in NAGASAKIでは、被爆者の講演や、各地の活動報告を行いました。夜には、全国のメンバーと署名の集約集会を行いました。

今年は全国からの署名96,428筆集まりました。累計2,723,142筆になり2,700,000筆を突破しました。





高校生1万人署名活動 高校生平和大使・ 9月10日 読了時間: 3分

第27代高校生平和大使国連欧州本部訪問

今年も無事に高校生平和大使は欧州訪問を終え帰国いたしました。
大きな成果を上げることができました。多くの皆様のご支援に感謝します。

第27代高校生平和大使は、8月19日～24日までスイス・ジュネーブにある国連欧州本部を訪問しました。

初日は、軍縮会議日本政府代表部を表彰訪問し、市川とみ子大使と核兵器廃絶をはじめとする軍縮の動きについて議論をさせていただきました。その後、国連周辺の見学を行い、地雷やクラスター爆弾を批判するブロークンチェア、マルセル・ジュノー博士の記念碑などを訪れました。

2日目の朝からは国連軍縮会議を傍聴しました。市川大使が会議の初めに、高校生平和大使を紹介し、各国から歓迎のメッセージをいただきました。その後、国連ツアーに参加し、国連の広さに驚きながら、国連の歴史を学び、様々な会議が行われていることを学習しました。また、高校生1万人署名と藤原さんの折り鶴が展示されているコーナーがあり、署名活動の継続・重みを再確認しました。

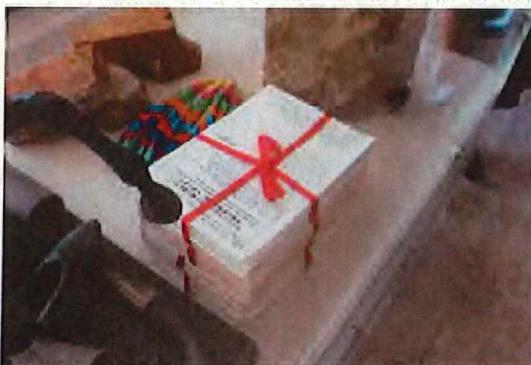
午後からは、国連軍縮局を訪問し、高校生平和大使全員がスピーチするとともに、広島・長崎市長のメッセージと96,428筆の署名・目録を提出しました。(これまでの合計2,723,142筆)メラニー・レジナルド国連軍縮部ジュネーブ事務所長は開会のあいさつで「高校生平和大使に会うのは昨年引き続いて2度目となるが、昨年の感動を忘れることができない」「皆さんが国連で核軍縮の重要性について語ってくれることは大変重要だ」と語り、高校生平和大使の活動を高く評価し、今後の活動に期待を込めた発言は、高校生平和大使にとって大きな励みとなりました。

3日目は、早いもので最終日の活動でもありました。今回は新たにGCPS(ジュネーブ安全保障政策センター)とUNIDIR(国連軍縮研究所)を訪問しました。

GCSPでは活動の紹介を受け、4人の高校生平和大使がスピーチを行い、意見交換を行いました。参加された職員の中には高校生平和大使のスピーチに涙を流して聞き入る人もいて、核兵器廃絶の熱い思いを伝えることができ、核兵器廃絶と平和な世界の実現に向けて多様な議論ができました。次に国連内にあるUNIDIRを訪問しました。こちらでも活動内容について4人の高校生平和大使がスピーチを行い、意見交換も行いました。夕方には、大使公邸で軍縮会議日本政府代表部主催のレセプションが行われました。外交官やジュネーブ大学の学生などが参加していて、多様な考えの人たちと交流を出来る有意義な時間になりました。

24日、長崎で帰国報告会を行いました。

これから、全国のメンバーに共有しながら、活動をしていくことを再確認し、長い高校生平和大使の旅を終えました。



第 12 回国労フクシマ交流・視察学習会しおり

2024 年 12 月 7 日(土) ~8 日(日)

国鉄労働組合